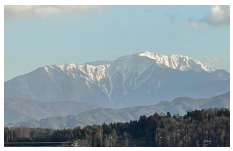
ああ　遠くの空は　晴れている



ＮＯ37　　南箕輪村教育委員会

広報みなみみのわ　令和８年10月号に掲載されている「あたたかな まなざしで」Ｎｏ６を紹介します。今回の執筆は、南箕輪中学校の宮澤修司校長先生です。

【発行の趣旨】

村報「みなみみのわ」に、子育てに関する情報提供コーナーを設け、子どもにとって大切な学びや経験について考えたり、日頃の子どもとの関わり方を振り返ったりする契機にしたいと思います。小中学生の子育て中の保護者に限らず、これから保育園に入学するお子さんの保護者、子育ては終わったが改めて子育てについて考えていただける世代の方々からお年寄りの方々まで、村民全体で子育てについて考え合うコーナーを創っていけたらと思います。

（次回予定）令和８年１２月号　南箕輪小の唐木弘志校長先生が執筆します。

「地域の中で　仲間と共に　自分を磨く」ために、子育てについてみんなで考えていきましょう

あたたかな まなざしで　No.6

「先生、早く見に来てよ！」

南箕輪中学校長　宮澤 修司



以前読んだ本の中で、とても印象に残っているエピソードがあります。昭和3年、諏訪高等女学校で教鞭を執った大村はま先生が、生徒に「どんな先生になってほしいですか？」と問いかけたところ、生徒たちが「えこひいきをしない先生になってください」との言葉をかけられたそうです。大村先生は、その言葉を生涯忘れることのできない「教え子のことば」の一つとして大切にしていたといいます。私は若いころ、このエピソードに深く感銘を受けました。そして、子どもたちから「先生は公平に接してくれる」と感じてもらえる教師でありたいと思いながら、教育活動に取り組んできました。

小学校5年生の担任をしていたころのことです。道徳の授業で、子どもたちは学習プリントに自分の考えを書いていました。私はその間、書き終わった子どもたちのプリントを見て回り、線を引いたり丸を付けたりしていました。すると、まだ見てもらっていない子が、「先生、早く見に来てよ！」と声を上げました。私は「ちょっと待ってね」と答えようとしたのですが、そのとき別の子が、「大丈夫だよ。先生はいつもみんなを見てくれるじゃん」と、その子に言ったのです。私はその言葉に驚くとともに、子どもたちは教師の姿をよく見ているのだと改めて感じました。そして、自分なりに大切にしてきたことが、少しは子どもたちに伝わっていたのかもしれないと、うれしく思ったことを今でも覚えています。

子どもたちの言葉は、ときに教師の心を映す鏡になります。これからも一人一人の声に耳を傾けながら、子どもたちと共に成長する教師でありたいと思います。



【このコーナーは、偶数月に、教育委員会スタッフと小中学校の担当者が交代で執筆していきます。】